

第 2 回日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ 及びシホテアリンスキー国立自然保護区との交流について

1. 第 2 回日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ

(1) 日時 平成 25 年 2 月 15 日

(2) 場所 ウラジオストク市内太平洋地理学研究所

(3) 参加者(別添 1)

(4) 次第 (別添 2)

(5) 成果等

- ・ 協力プログラム(別添 4)関連の会合としては 4 回目であり、日露間の人脈構築に寄与。
- ・ オホーツク海沿岸地域の自然環境を保全していく上で、日露両国の研究者による情報共有、共同研究の有益性について共通認識を得た。
- ・ 特に、アムール・オホーツク圏の共同研究の重要性と、更なる発展については、日露双方の参加者からの積極的な発言を得た。
- ・ 露側からも日露共同でのこの地域の自然環境に関するデータベース的な地図や模型の制作、出版物の制作、人材育成のための学術表彰の創設などの発言があった。

(6) 課題

- ・ これまでの研究成果を日露両国政府の具体的な取組につなげるなど、協力プログラムに基づく取組を、日露間での情報共有・共同研究段階から、今後どのように進展させていくか検討していく必要。

2. シホテアリンスキー国立自然保護区との交流

(1) 日時 平成 25 年 2 月 16 日～18 日

(2) 参加者 齊藤外務省欧州局ロシア課事務官、野木環境省自然環境局自然環境計画課課長補佐、増田知床財団事務局長、村上知床博物館学芸係長、近藤北海道総合研究機構研究員、垣内通訳

(3) 保護区概要(別添 3)

(4) 成果等

- ・ 知床と中部シホテアリンという国を超えて隣接する世界自然遺産地域相互の交流を深めることの有益性について共通認識を得た。これは国際的な協力体制の確立を謳う世界遺産条約の理念にも合致するものではないか。(北方四島やサハリンの保護区とは異なり領土問題の制約がない。)
- ・ 知床では絶滅したオオカミやカワウソが生息しているほか、シカの増殖が見られないなど、知床の本来の生態系の姿を考える上での有益な対照区となる可能性を認識。

(5) 課題

- ・ 今後どのように、両地域の交流を世界自然遺産地域の管理の充実化など意味のある形で継続していくか、関係機関・団体・専門家で十分に検討していく必要。